


2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 8 日作成)

委員会名	建築教育の情報化小委員会	主 査 名：川角典弘
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：河村 廣
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>初年度：独自の研究会又は報告会での発表。教育機関、企業等における情報技術に関わる建築教育等の見学，データ収集。</p> <p>2 年度：建築学会大会・情報システム利用技術シンポ及び独自の研究会における情報開示及び啓蒙活動。その他先端的技術等の見学，データ収集。</p> <p>3 年度 & 4 年度：上記の定期的活動と同時に現状に合わせたテーマに取り組み，速やかに対処できる体制を整える。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	川角典弘(和歌山大) 松永直美(レモン画翠) 下川雄一(金沢工業大) 木村謙(エーアンドエー) 朝山秀一(東京電機大) 衣袋洋一(芝浦工業大) 奥平与人(鹿島建設) 小松喜一郎(立命館大) 小瀬博之(東洋大) 手越義昭(広島工業大) 中川建(都築学園) 仲隆介(京都工芸繊維大) 藤井修二(東京工業大) 柳田武(日本大) 両角光男(熊本大)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p><u>建築の情報技術検討 WG</u>: 建築分野が求める情報技術について教育機関や企業における情報技術教育のプログラム事例の収集と検討・研究を行う。</p> <p><u>デジタル教育環境研究 WG</u>: 遠隔教育、デジタル教育、W E B 教材等の研究事例紹介と見学会の企画立案。</p> <p><u>コラボレーション研究 WG</u>: IT で強化される活動形態としてのコラボレーションに視座を置き，教育機関，企業，他業種等々におけるコラボレーション形態の事例収集・研究を行う。</p>	
2004 年度予算	350,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回小委員会(04 年 5 月 28 日・参加 8 名)、第 2 回小委員会(04 年 9 月 30 日・参加 6 名)、第 3 回小委員会(04 年 11 月 25 日・参加 7 名)、第 1 回電子会議(04 年 12 月 16 日・参加 7 名)、第 2 回電子会議(04 年 12 月 17 日・参加 8 名)、その他 ML 会議
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>建築啓蒙書「建築を拓く 建築・都市・環境を学ぶ次世代オリエンテーション」出版</p> <p>鹿島出版会より 10 月 22 日に単行本「建築を拓く 建築・都市・環境を学ぶ次世代オリエンテーション」を刊行。 定価 2200 円、236 頁。出版イベントとして出版記念パネルディスカッション(後述)を実施。</p> <p>建築情報教育は建築技術者の職能を拡大するとの観点から、国内外のオピニオンリーダーへのインタビューと建築情報教育の事例収集し、建築を学ぶ人たちに紹介する啓蒙書と位置づけ。具体的な成果のみえにくい建築情報教育の可能性を提示した。</p> <p>建築教育の情報化小委員会パネルディスカッション 「建築を拓く - 転換期を迎えた社会にある、建築系学生のための次世代オリエンテーション - 」</p> </div> </div>

主旨説明

情報技術は建築活動の場を拡張・変化させており、これから建築を学ぶ世代にとって建築系プロフェッショナルの職能と社会から期待される役割は何かを考えなければならない。この PD では、建築を学ぶ若い世代へのオリエンテーションとして、教育者、ユニヴァーサルデザイン分野の実務者及び建築以外のフィールドで活躍する先駆者を招いて、建築系プロフェッショナルの未来や果たすべき役割、さらに生き残りをかけたスキルと思考について議論する。

日 時 2004 年 5 月 29 日 (土) 午後 2 時 00 分 ~ 4 時 30 分

場 所 工学院大学新宿校舎 0542 教室

司 会 下川雄一 (金沢工業大学)

主旨説明 川角典弘 (和歌山大学)

パネリスト 松村秀一 (東京大学) 原利明 (国土技術研究センター)
新良太 (写真家)

コメンテータ 松口龍 (KAJIMA DESIGN)

PD 進行 小松喜一郎 (立命館大学) 松永直美 (レモン画翠)

来場者 約 40 名

単行本の出版記念として実施したこの PD では、多数の学生来場者も参加し、コンバージョンやユニバーサルデザインなど幅広い観点からのものづくり、建築設計が必要との討論を実施した。

第 27 回情報システム利用技術シンポジウム パネルディスカッション

「情報化時代の建築・教育・社会のあり方 建築と IT で拓かれるもの、変わるもの」

主旨説明

IT は技術革新の道具から、実務や教育の枠組みを再編し、建築業や社会そのものを大きく変貌させる力となりつつある。PD では、建築設計や構造の教育者、企業実務者、社をパネリストとして招き IT で変わる建築・教育の境界について議論を行う。

基調講演 斉藤公男 (日本大) 衣袋洋一 (芝浦工業大)

パネリスト 加賀有津子 (大阪大) 榊原克己 (グラフィソフト)
下川雄一 (金沢工業大)

モデレータ 松永直美 (レモン画翠)

司 会 川角典弘 (和歌山大) 小松喜一郎 (立命館大)

来場者 約 40 名

建築教育と IT の関係について、CAD/CAAD、ネットワーク、コラボレーション、ユビキタスなど次々と登場する新技術について、十分に検討し、評価してきたとはいいがたいとの反省から、情報化建築教育の先駆者、早い段階からコンピュータ利用を進めてきた構造設計、さらには CAD 製品を提供する企業のそれぞれの立場からテーマをいただき、情報化時代の「建築を拓く」取り組みや問題について討論を実施。

IT 教育を支援する技術等の見学会

1. 技術見学会：日立グループ「都市開発ソリューションフェア」

11 月 25 日 (木) 午後 12 : 30 ~ 15 : 40 実施

2. 技術見学会：3D CG ベンダー、メガソフトの技術見学会 (実施予定)

(近畿支部情報システム部会と共催として計画中)

	<p>建築雑誌「今伝えたいトピックス：“建築を拓く”ITと教育の役割」寄稿 建築雑誌連載今伝えたいトピックスに建築教育とIT導入の動向、現状について紹介する「“建築を拓く”ITと教育の役割」を寄稿。</p> <p>大会研究協議会（札幌）「ユビキタス社会における建築と情報の新しいかたち」資料集への寄稿 2004年札幌大会での研究協議会に小委員会に「ユビキタス社会と建築情報教育の展開」を寄稿。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
	<p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/jyoho/M020/index.html</p>
<p>目標の達成度</p>	<p>（当初の活動計画と得られた成果との関係）</p> <p>建築教育分野へのコンピュータ利用は、これまでの黎明期から実用期に移ったとの立場にたち、当初、目標としてかかげた、教育の現場が直面している問題の掘り起こしとこれからの建築技術者（建築系プロフェッショナル）の役割について啓蒙しようとの成果は挙げられたと考えている。特にこの主旨にそった単行本を小委員会で企画、編纂できた。一方で、技術革新にともなう社会ニーズの変化が急速に進み、小委員会として後手にまわることがあったため、より迅速な活動体制を整えなければならないとの反省点を得た。</p>
<p>その他評価すべき事項</p>	<p>これまで主催してきたPDでの配布資料、ビデオ記録をDB化し、活動記録としてHP掲載準備中。</p>